

第1学年 音楽科学習指導案

平成18年9月26日(火) 第1校時

第1学年D級(男子20名、女子21名)

指導者 上村 真喜



1 単元 情景と音楽

2 目標

- (1) 歌曲の情景をイメージしながら意欲的に鑑賞する態度を養う。
- (2) 詩の表す情景と音楽の特徴との関連を感じとることができる。
- (3) 情景の変化を表す音楽の構成要素や表現要素の変化を感じ取る能力を育成する。
- (4) 曲の表現効果を味わいながら鑑賞できるようにする。

3 指導観

- 本単元は、詩の情景と音楽が結びついた歌曲に興味・関心をもち、音楽から詩の情景を感じ取るとともに音楽表現の工夫を味わうことをねらいとしている。学習指導要領、第1学年の目標に「多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる」や鑑賞の内容に「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと」が掲げられている。ここでは、鑑賞の活動における基礎的能力を育てる観点から、音楽の構成要素について、その働きと効果を知覚し、楽曲の雰囲気や曲想とかかわらせて聴くことをねらいとしている。そのためには、音楽の構成要素と楽曲のもつ雰囲気や曲想とのかかわりを、意識して聴き取らせたり、聴き分けさせたりすることが必要である。歌曲「魔王」は「語り手」「父」「子」「魔王」という4つの登場人物の対話形式となっているため、特徴ある構成要素とイメージをかかわらせて聴くことが容易な、情景描写や物語風の楽曲である。そのため情景を表現するための音楽の構成や、表現要素の工夫を聴き取らせ、音楽表現の効果を味わせたい。
- 本学級の生徒はこれまでにヴィヴァルディ作曲「春」の鑑賞を行っている。「春」では音楽によって表現された情景を味わいながら、鑑賞する学習を行った。強弱や早さ、そして音の高さや楽器の音色の違い、といった音楽表現によって生み出される情景を想像しながら、味わって聴く生徒が全体の4分の3いた。また、これまでに詩と音楽が結びついた歌曲にふれたことのない生徒が大半であり、詩と音楽の関わり、音楽表現の工夫について十分に学習していない。この単元では、音楽と情景との関わりに加え、音楽表現の豊かさを感じ取る能力を養う必要がある。
- そこで本単元の指導にあたっては、音楽から情景をイメージできるようにし、楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取ってもらいたい。また鑑賞の感想を言い表すことによって、感じたことやイメージしたことを表現する力を育てたい。詩の内容を理解し、情景をイメージして4つの役ごとの特徴を示す音楽表現の工夫や、物語の展開に伴う表現の変化に気づくことができるように場を設定する。そしてグループで配役を決め「魔王」の詩を表現豊かに朗読し、音楽表現の工夫を確かめたい。また詩の情景に合ったピアノ伴奏を味わうことができるようにしたい。特に前奏の音楽表現の工夫や、曲想への効果について感じることをできるように助言する。また「魔王」だけではなく、「菩提樹」を鑑賞することでシューベルトが作った歌曲の表現の豊かさや美しさを感じてもらいたい。それに加えて鑑賞の活動だけではなく、歌う活動を通して歌曲を身近に感じ、興味・関心をもつように指導していきたい。

4 指導計画

情景と音楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

(1) 情景を思い浮かべながら歌曲を鑑賞する・・・・・・・・ 1時間

(2) 情景と音楽表現の工夫について・・・・・・・・・・ 1時間(本時)

5 本時の学習指導

(1) 目標

○ 情景を表すために、どのような音楽表現の工夫がされているのか気づき、鑑賞しよう。

(2) 資料及び準備

教科書, CD, 再生機器, ピアノ, ホワイトボード, ワークシート, 拡大楽譜,
「菩提樹」の楽譜

(2) 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 前時の学習を振り返る。 ○「菩提樹」を歌う。 ○「魔王」と「菩提樹」の曲想を振り返る。	○ 前時に学習した歌曲を歌うことで、歌曲に親しみをもち、本時の学習意欲を高める。 ○ 本時の学習につなげていくことができるように、「魔王」と「菩提樹」の曲想を振り返る場を設定する。	8分
2 本時の学習内容と目標を確認する。 情景を表すために、どのような表現の工夫がされているのか気づき、鑑賞しよう。	○ 目標を示すことで、本時の学習の見通しを持たせる。	10分
3 ピアノ伴奏の前奏の工夫について確認する。 ○ ピアノ伴奏の前奏を聴く。 ○ ピアノ伴奏の前奏が詩の情景の何を表しているか考える。	○ ピアノ伴奏の前奏を演奏して提示し、音楽表現の工夫について気づかせる場を設定する。 ○ ピアノ前奏の音楽表現の工夫に気づくことで、前奏が曲の雰囲気や曲想にかかわっていることを告げる。	14分
4 「魔王」の4つの役を音楽で表現するためにどのような工夫があるか確認する。 ○「魔王」を鑑賞(日本語)し、4つの役それぞれにどのような表現の工夫があるか聴き取る。	○ 教科書にある「魔王」の楽譜を目で追いながら鑑賞し、役ごとの特徴を見つけるように助言する。	

○ 気づいたことをワークシートに書き込む。 ○ 気づいたことを発表し、表現の効果を確認する。 ・子の音が段々高くなること ・父の音が低音域から始まること ・「魔王」の伴奏が変化すること ○ 4人グループに別れ、役柄を決めて「魔王」の劇をする。 5 日本語で歌われている「魔王」のCDを聴きながら歌ってみる。 6 本時の学習を振り返り、次時の学習の予告をする。	○ 音楽表現の工夫を積極的に聴き取ることができるように、気づいたことをワークシートに書く場を設定する。 ○ 拡大楽譜を用いて「子」の音が高くなっていくことを告げる。 ○ 音楽表現の工夫に気づくことで、音楽の構成要素と曲の雰囲気や曲想がかかわりあっていることを告げる。 ○ 気づいた音楽表現に気をつけながら劇をするように告げる。 ○ 劇をすることで、詩の情景を表現するための工夫について理解する場を設定する。 ○ 自分なりに役ごとで歌い方の工夫をし、情景を表す工夫をするように助言する。 ○ 本時の学習を振り返り、次時の予告をして学習意欲を高める。	28分 43分 48分 50分
--	--	---

6 板書計画

詩の情景を表すためにどのような音楽表現の工夫がされているのだろうか。

<「魔王」のピアノ伴奏の
前奏は何を表しているか>

- ・馬が駆ける様子。
- ・風が吹いている様子。
- ・魔王が追いかけているようす。

<4つの役ごとの音楽表現の工夫や、特徴>

「子」・・・音が高くなっていく
「父」・・・低い音から歌い始める
「魔王」・・・甘い声で歌う、
伴奏の形が変わった
「語り手」・・・曲全体をまとめていた

「子」旋律の拡大楽譜